

東山農場

1954年のパンフレット
(写真は現在のもの)

農場本部



1、沿革

昭和2年(1927)11月8日、ポンテ・アルタ、サン・ジョゼニ・ボカユーバの三農場を買収し“FAZENDA MONTE D'ESTE”の名稱の下に経営を開始した。その経営主体はブラジル国法による“FAZENDA MONTE D'ESTE”S/Aである。

2、位置及交通

サンパウロ州カンピーナス郡に属し、カンピーナス市（サンパウロ市より西北方100km）を距る北東11km、全市より有名な温泉ポツソス・デ・カルダス Pocos de Caldas に通ずる州道に跨り南緯22度45分、西経47度附近に位置する。

交通はパウリスタ線カンピーナス駅から快適なアスファルト舗装道路を20分で農場本部に達する。またモジアナ線によればカルロス・ゴーマス駅は急行列車停車駅ではないが、駅前から既に農場で、本部までは自動車で郡道を経て十分な距離にあり之等の街道は乗合自動車の交通が頻繁にあり至便である。

3. 自然的諸條件

気候＝サンパウロ州内地高原の特徴として4月から9月迄は乾期、10月から3月迄は雨期である。乾期は冬季で、雨期は夏季であるとも云える。然し、冬と云っても稀に軽い霜を見る程度である。

農場内における最近拾カ年間の観測によると最も寒い7－8月の頃に最低摂氏10度、最も暑い1－2月でも最高摂氏35度を越すことは稀である。平均温度は略々21度である。

年間降雨量の最近十カ年間の平均は956耗、廿年間の平均では1,096耗である。また年間降雨量の開場以来の最高1,349耗、(1939年度)、最低742耗(1954年度)で近来減少の徴を示しつつある。

雨量の略々70－80%迄は雨期に降っている。雨期の雨は雷が多く、時には降雹を伴う。海拔が高い(600m)ことと夏季に雨が多いことは緯度の割合に涼しい気候をつくっている。

地勢＝大体、大波状形の丘陵地形であるが、東半は高く西半は低い。標高は海拔570米乃至650米である。

アチバイア河は農場北境を西に流れピラシカーバ河となりチエテ河及パラナ河を経て、ラプラタ河に合流する。この河が農場地の一部を貫流する附近には急端多く自家用程度の電力は容易に得られる。

地質＝本場の東境には太古代の花崗岩の露出があり、それに続いて大部分が石炭紀の氷河層が西方に展開している。この氷河層にはジュラ期の噴出であるダイアベースの丘陵がよこたわっている。故に農場内の地質構造は極めて複雑である。

土壌＝農場の花崗岩の風化によって出来た土壌は赤色粘質で永続性がある良好な耕土である。

噴出鹽基性岩の風化したものはテーラ・ロツシヤと呼ばれる土壌で赤紫色を呈し、ブラジル最良の耕土である。氷河層の土壌は一般に肥沃度が低い。

農場耕土の分析結果は次の如くである。

耕土の種類	PH	腐植分 %	窒素 %	磷酸 %	加里 %	石灰 %
テーラ・ロシア	5.77	13.657	0.140	0.017	0.010	0.132
花崗岩土壌	5.58	9.111	0.108	0.022	0.029	0.044
氷河層土壌	4.90	1.70	0.070	0.008	0.009	0.042

当地方開発の年代＝当地方はサンパウロ州では舊地帯と称されているが、それでも農業的開発が始められてから百年を越すこと僅かである。開拓時代を経て、今やサンパウロ州の新式農法はこの地帯を中心に広まりつゝある。



コーヒ一選別場



昔の農園労働者住宅内部





当時の労働者住宅

NHK テレビドラマ「ハルとナツ」のロケ地にもなった。

4、総面積及地目別面積

昭和29年(1954)4月現在

総面積	1. 629, 5	アルケーレス (約3. 912町歩)
	面積 (アルケール)	総面積比%
●珈琲園	85. 2	5. 2
●果樹園	16. 5	1. 0
●油桐園	80. 2	4. 9
●ユーカリ植林地	265. 3	16. 3
●雑作地	139. 2	8. 5
●牧場	876. 2	53. 8
●雑地	166. 9	10. 3

5、各事業の概況

A、珈琲栽培

前農場主時代より事業を継承し多少の増植も行い、一時は、258. 000本を算し、既往十力年千本当り平均収量60. 87アローバスとなっている。昭和15年(1940)から老樹の淘汰を行い、昭和16年(1941)には120. 000本迄に減少した。

これらの老樹の堀超された舊園には新植による更新が計画さ

れ、即ち昭和18年(1943)州立農事試験場において改良選出されたボルボン・ベルメー

リヨ種 (Borubon Vermelho) の優良系統による舊園更新の第一歩が踏み出された。

更新区は日蔭樹の混植、密植による多収穫、表土流失防止のための等高線植栽、全じく表土流失並びに長期の輪作のための帯状圃場 (Culturas em faixas) 水蝕の対策としての排水路 (Canal de escoamento) 等と技術的に新しい面を開拓し、実行に移し好結果をもたらしつつある。

なお引続いての新植区には昭和27年(1952)ボルボン・アマレーロ種 (Bourbon Amarello) 昭和29年(1954)ムンド・ノーボ種 (Mundo Novo) の新最良品種が増植されつつある。

現存樹数及び面積

舊園区	114. 635 本	57. 4 アルケーレス
更新区	90. 041 本	27. 8 アルケーレス
合計	204. 676	85. 2

なお現在の舊園の樹齡の最高は37年である。

本農場の珈琲新式栽培の試がブラジル珈琲栽培改良の先鞭をつけた事実は誇るに足りる。



東山農場のコーヒー園

B、 植林事業

昭和4年(1929)よりユーカリ樹の植林を開始し、今日までに植栽面積265.3アルケール、樹数968.990本に及んでいる。既に製材用材、電柱用材、建築用丸材等の伐出も行われているが薪材の生産が主要部分である。

なお、当场における薪材の一アルケール当り生産高は第一次第二次(再生材)共に600立方乃至700立方メートルであり植栽品種は主として攻の品種である。

TERETICORNIS, SALIGNA, ALBA, CITRIODORA

C、 油桐栽培

昭和6年(1931)台湾より支那油桐種子を輸入し、試験的に植栽した。これはブラジルにおける油桐栽培の先ゴウをつけたものである。しかして、その結果が良好だったので昭和11年(1936)より本格的に之の植栽を開始し、現在は面積80.2アルケール、樹数26.944本を算している。

D、 果樹栽培

現在、果樹類の栽培は次の如くである。

アバカテ 9.0アルケール 2216本

レモン 6.1 同 2646 同

蜜柑類 1.4 同 946 同

アバカテは品種を多数蒐集し42品種に及んでおり、品種により熟期を異にするため年中殆んど熟果を得ることが出来る。



部の住宅と庭の木



E、 雑作栽培

棉花、玉蜀黍、緑肥作物の三種を主とした輪作により運営されており、その合理的栽培は農務局の認むるところとなり、現在緑肥作物各種を含み、棉、玉蜀黍、其の他12位類の作物が州政府の依頼により、州の採種場となっている。

各作物の概況は次の如くである。

1、 棉 花

舊来の廣面積栽が集約合理栽培による単位面積当り収量の増加に改められ、従って近年、栽培面積は著しく縮小されるに至った。1 アルケール当り実棉の収量は最高480 アローバス、農場の毎年の平均牧童は280 アローバス内外である。

2、 玉 蜀 黍

採種用としての交配種 (Hibrido) 並びに軟質系 (Aruour) 種. 及び自家消費とが栽培されている。1 アルケール当りの収量は最高130 俵、平均100 俵内外である。

3、 緑肥作物

いづれも豆科で、一部は緑肥として休閒鋤込用であり、一部は採種用である。

栽培中の主な品種は次の如し。

- Feijo Soja 大豆
- " Guandu
- " de Porco
- " Mucuna Preta
- " Mucuna Anao
- Crotalariaq Pau

- " Juncea
- Centrasema
- Dolichos Lab-Lab

り2 - 3頭より飼養出来ず、都心に隣接した地域は地価の高騰のため企業として経済的に成立しないことになった。

しかし、地力維持法の高度の利用と、牧草に普通作物並に肥料を施すことによって、実験の結果1アルケール当りに7 - 8頭の飼育が可能であるとの結論を得た。

かくして、舊法によって、かつては3,000頭を飼育した広大な牧場の更新に乗り出し、単位面積当りの収容頭数の増加によって不必要となった牧場700アルケールは区劃分譲の計画中である。

養豚は目下のところ場内消費の域を脱していない。

G、養鶏事業

自給肥料の給源としての採糞を主眼として始められたものである。試験期の結果の好成績により目下拡張すべく計画中である。

現在、飼育中の品種は白色レグホン並にニュー・ハンプシャーの二種で保有羽数は3,000羽である。

6、農地使用計画

(Planejamento de aproveitamento da Terra)

1930年代初期より、ハモンド・ベネット博士によ提唱された地力維持の運動は、やが

て農地使用計画となり、北米合衆国では国家の必要缺くべからざる大事業として着々と進捗した。

ブラジル、特にサンパウロ州においても1930年代末期にはこの事が重大性が識者の間に注目され、その検討、研究が開始された。1912年には農事試験場、州農務局にこれを担当する新部門がそれぞれ開設されるに至った。

この運動の黎明期にあつて、卒先実行に移されたのが1943年開設の当场ボルボン区の帯状珈琲園である。雑作地と珈琲園を交互に帯状に配置したものであり、その中間を二條の排水路が設けられ技術的に完全な措置が施された。この事は専門技術者間の注目を惹いたものである。

爾来、珈琲その他の永年作物は勿論、雑作地、牧場に至るまで農地使用計画の鐵則にもとづいた運営が行われて来た。

1952年ブラジルにおける農地使用計画の第一期計画として、カンピーナス地方にデモストラソン区域が設置され、その区域内でも今日までの実績によって当场より調査研究が着手されることゝなった。すでに飛行機による写真測量は完成、地上部隊の活動もつゞけられている。斯して事業は当场と緊密な連絡の下に着々進捗しており、すでにポツソ区の牧場地帯の施設工事を完了した。

こゝ数年にして、当園としては珍しい風貌を備えた、農地使用計画に基づく新らしい型の農場が完成されるであろう。

7、酒 造 工 場

(006. 挿絵 写真)

昭和9年（1934）に設立されて以来東キリン、東オートリの名で売出された当工場の國産清酒は戦時中も在伯同胞の郷愁を

慰す糧として愛用され、こゝに20年の歴史を経た。今日では優に二千石の需要は楽に應じ得られるだけの醸造能力を持っている。また、単に量産のみではなく、その品質の向上を目指して工場設備の改善を行い、南半球唯一の日本酒と云う誇りを名実共に持ちつゞけるべく努力している。

8、 場内施設の概要

- 電話＝カンピーナス局4428番（長距離通話も可）
- 水道＝農場本部及酒造工場部には水道の設備あり、他に一般用水に関する設備は完備の域にある。
- 医療＝本場はカンピーナス市に近く交通が便利であるから、應急手当品の外は特に医療設備を持っていない。しかし、場内居住者は農場の指導と補助によって医療組合を組織し、最も低廉な料金で、診察並びに往診が受けられるようになっている。その他慈善病院、産院等との連絡は完全にとれている。
- 売店＝農場は食料その他の生活必需品を実費で販売する売店を経営しており、また毎週末には当场産の牛或は豚を屠殺し、これを安価に分配して労働者の便宜を計っている。
- 教育＝場内に小学校が三校あり、それぞれ教育局派遣の教師が教鞭をとっている。

●宗教＝場内にカトリック教会堂の設があり、毎月一回以上神父を招いてミサを修し、説教を乞うている。

●娯楽＝農場クラブには書籍、ラジオ、ピンポン、玉突台、碁、将棋、麻雀、野球具、テニス・コート、水泳用プール等を設備し、娯楽及び体育に資している。映画は発聲映写機を備え殆んど月一回シネマとダンスの会を催し場員に公開している。

9、場内人口

農場内には職員11名、監督8名、場内居住者総計165家族、770名で、その園特別及び割合は次表の如くである。

日本人の経営ではあるが労働者として日本人を使用していないところに本場の特異性がある。

又作業機械化により労働者漸減の傾向にある。

10、農場経営の目標

多年生作物、一年生作物を土地の使用価値に従って適当に分布栽培し、一年生作物に対しては輪作を実行、これに配するに牧畜をもって多角経営を行い、熱帯農業に有り勝な地力の急激な消耗防止の手段を構じて、従来の粗放単作の大農式を改め、集約農法により運営の永続性を計り、時代の推移に順應して行く経営を目標としている。

11、本場の名誉

A = ウガンダ蜂の飼育

ブラジル珈琲の大敵ブロッカに対する大敵として生物学研究所が1931年ウガンダ蜂も輸入して、これが飼育を奨励するや、

当時は眞先きにこれが飼養繁殖を計り、細心の注意をもって事に当って来たので、大害を恣にしていたブロッカを閉塞せしめることに成功、その減害方法は腐心の末確立の域に達した。このため他地方がブロッカの大被害を蒙ったにもかゝらず当時は今日の珈琲園を保存することを得たのである。

かつては伯國農事協会の要請により、これが飼養経過の公表を行い、またその運営の適切さが認められ、生物学研究所の推薦により内地分配向け種蜂の供給をなすに至り、更に海外まで輸出されるに至った。なおこのウガンダ蜂に関する研究の成果は今次大戦後ポ語で一冊として刊行され、また山本場長の博士論文として日本の学会においても認められるところとなった。

B = 種牛の入賞（印度ブラジル種）

1938年ベロ・オリゾンテ市に開催の第七回全国畜産共進会において當場屋のバロン號が牛の本場ミナス州を凌いでチャンピオン・シップを獲得した事は、それが邦人によって育威されたものであるだけに畜産界における一大驚異であった。越えて1940年サンパウロ市における第九回全国畜産共進会においてもガンヂー號がチャンピオンに人選し、當場改良種牛の聲価は愈々一般の確認するところとなった。元来牛の改良は一朝一夕に出来る事業ではなく、當場においてもゼブー牛育成開始以来十年余の星霜を経たものであり、経済的にも多大の犠牲を払い、幾多の難関を克服して成し遂げられたものである。

C = 其の他

イ、農務局指定採種場となる

今日までの良心的操作並びに運営が当局の認めることとなりまづ州農務局珈琲採種園として推挙を受け、現在ボルボン・ベルメーリヨ種の全国最大の指定採種園である。其の後、玉蜀黍同イブリド（交配種）棉花、緑肥作物各種等々次々政府当局の懇請を受け、現在では登場殆んど政府採種場の観を呈するに至っている。

ロ、今次大戦直後の棉の不況時代に棉花栽培に関する技術並びに経営画の発表をなし、最近の棉花多収穫の研究に先ゴウをつけ、棉作特別委員会の推賞を受け、また1953年度州内大豆多収穫競争に受賞するなど、その他数々の功績を果し栽培技術面においても常に農業界の指導農場として斯界に認められ、視察者の訪問は年中後を断たない有様である。

これらの諸事実は獨り当場の名誉である許りでなく、在留邦人がブラジル産業の進歩に貢献しつつある顯著なる事例として日伯親善に資するところ大なるものがあるであろうと信じ、こゝに特記する次第である。



東山農場紹介パンフレット おわり